

資生堂と神薬



「室町」資生堂薬舗、明治初年

海軍病院薬局長を辞した福原有信が明治5年(1872)9月17日新橋出雲町16番地に洋風調剤薬局「資生堂」を創業した。また、これと並行して本町1丁目にも陸軍軍医総督「松本良順」*に勧められて「西洋薬舗会社資生堂」を開業した。2つの資生堂は解散を余儀なくされたが、明治8年「西洋薬舗会社資生堂」は三井組(三井銀行前身)に売却され、所在地名から「本町資生堂」**、福原有信資生堂も所在地名をとって「新橋資生堂」と呼ばれるようになった。本町資生堂の製薬所が牛込にあったことから、本町資生堂が解散し、三井系列から離れたため「牛込資生堂」と呼ばれ、これが「邑田資生堂」の前身と考えられる。本町資生堂が解散後、売薬権を関係者が分取し、田中九右衛門が「室町資生堂」を経営し、後に田中九右衛門が権利を「新田長治郎」に譲渡したことから「新田資生堂」の名称で昭和18年まで存続したが、企業整理で田辺製薬に売却されることになった。

福原有信、邑田弥平、田中九右衛門らが神薬、胃腸薬を製造販売した。その他「山内資生堂」「養庭資生堂」「台湾資生堂」「笠井資生堂」がある。

* 850年代に米国で誕生した薬学クロロタンが、明治初年に日本に渡来し、佐藤尚中と東方の松本良順が「洋用神薬」と形を覚え店舗・配製向売薬として一般販売のクロロタンが中止になるまで愛用者があった。
 ** 本町資生堂の「神薬」は明治10年(1877)日本初のもので、英薬局方では第3版で明治18年(1898)、日版では第3で明治39年(1906)に収載されている。



安達吟